

「何だ、はいかりだがとは何のこつた」といつて  
中々機嫌が悪い、そこで又其男が

「いや、憚りだが、其帽を」

「又いやがる、はいかりとは何の事つた、忌々し  
い」

といつて、今度は鐵もつ手を離して、睨みつけた  
『いや、そんなに怒らないだつていゝではありま  
せんか、憚りだがといつた丈けで、別に根も葉も  
ない事ですもの』

「オヤ、此野郎葉ばかりが高して、今度は、根も  
葉もないとぬかしたな」

### 脊の高さと鐵砲丸

戦争では、鐵砲の玉が敵の後へ落ちるのは、一向  
役に立たないで、當らなくても前に落ちる様だと

非常に敵の勇氣をひしぐ事か出来ず、日本の兵  
隊は射撃が上手だから、大抵は敵に當るけれども  
夫でも當らなかつた所が、日本人は脊か低いから  
其丸は皆シューウ〜と敵の足許に落ちるから、  
敵は中々進めない、所が露西亞人と來ると、無闇  
に脊が高いのだから、何時でも照準が上向いて居  
るので、我軍に向つて打つ丸は、皆ポーン〜と  
頭の上を通り越して、行つて仕舞ふといふ話し。